

要 旨

本研究は、児童がコミュニケーションを円滑に行うための支援の在り方を探ったものである。コラージュなどの非言語的な表現手段を活用すると、児童は自己表現、自己表出をしながら解放感を味わうことができる。シェアリングでは、作品が媒介となることで、児童同士が円滑なコミュニケーションを行うことができるのではないかと考えた。ここでは、事例研究を通して得られたコラージュ及びシェアリングの具体的な実施方法と留意事項、振り返りにおける九分割統合絵画法の効果的な活用方法について述べる。

〈キーワード〉 ①非言語的な表現手段 ②コミュニケーション ③九分割統合絵画法（NOD）

1 研究の目標

非言語的な表現手段を活用することを通して、児童間の円滑なコミュニケーションを築く支援の在り方を探る。

2 目標設定の理由

近年、児童のコミュニケーション力が低下したことにより、存在感の低下や対人関係を円滑にできないなどの問題が起きている。この要因として、核家族化や少子化により、児童を取り巻く環境が大きく変化し、地域での遊び場や遊ぶ友達の数の減少、これに伴う、本来、遊びの中で培われるべき体験が不足していることなどが考えられる。

本研究では、個別の支援が必要な児童を含め、すべての児童を対象にする予防・開発的教育相談の中で、コミュニケーションが円滑になるような支援を行えば良いのではないかと考えた。現在の教育現場では、予防・開発的教育相談の考え方が広まってきているが、時間がうまく取れずに実践できなかったり、実践はしているものの効果が上がらなかったりするなどの現状がある。

そこで、予防・開発的教育相談において、プレイセラピーやアートセラピーなどの非言語的な表現手段を活用することを通して、自然な心の状態でコミュニケーションを促進し、互いの心理的距離を縮められないかと考えた。さらに、互いに認め合う活動を設定することで、自己肯定感を高め、存在感を感じることができるようになりたいと考えた。そうすることで、よりコミュニケーションが円滑になると考え、本目標を設定した。

3 研究の内容と方法

- (1) 非言語的な表現手段に関する文献や資料を基に理論研究を行う。
- (2) 予防・開発的教育相談に関する文献や資料を基に理論研究を行う。
- (3) 教育相談にかかわる手法・技法を研究し、実践を通して習得を図る。
- (4) アートセラピーなどの非言語的な表現手段の技法を研究し、実践を通して習得を図る。
- (5) 事例研究を通して、児童へのかかわり方を研究する。

4 研究の実際

(1) 文献研究

非言語的な表現手段には、プレイセラピーやアートセラピーがある。プレイセラピーは、遊びを通して自己表現、自己表出を行う。アートセラピーは、絵画や粘土、音楽やダンスなどを通して自

己表現，自己表出を行う。このように，自己表現，自己表出を行うことで心的浄化（カタルシス）が起こり，すっきりしたり，解放感を味わったりすることができる。また，様々な自分に気付くことができるようになり，自己洞察，自己理解が進むという特徴もある。さらに，「抵抗が少ない」という特徴もある。これは，活動そのものが遊びであるため，抵抗なく活動に入ることができるということである。「コミュニケーションの媒介となる」という特徴もある。これは，遊びや作り上げた作品を基に，互いに自分の思いを自然な状態で話すことができるということである。また，同じ時間を共有することでコミュニケーションがスムーズに行われ，相手への理解も深まる。

アートセラピーには，絵画療法や箱庭療法，コラージュ，音楽療法など様々な技法がある。コラージュは，雑誌や広告などから好きな部分を切り抜き，画用紙の上に好きなように貼っていく活動である。非言語的な表現手段がもつ特徴とともに，「安全性や回避性が高い」ということに注目した。作る際に，下見をしてから自分の思うように切り抜いたり，嫌なら切り抜かなかつたりすることができるからである。

活動の振り返りには，九分割統合絵画法（Nine-In-One Drawing Method, 以下「NOD」と省略）を用いることにした。NODはある課題に対して連想するものを，図1に示すように，9つのマスの中に絵や言葉などで，思い付くまま描き表していく技法である。A4の画用紙に枠付けした後に，3×3に分割する。その用紙の中に，思い付いたことを順番に表現していく。

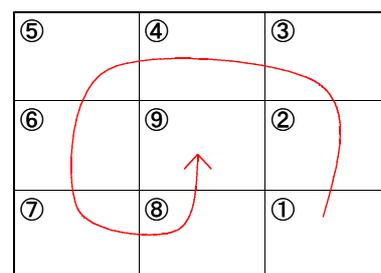


図1 NODの枠

森谷寛之は，NODの教示について次のように述べている。(1)

右下隅から反時計廻りに中心に向かう順序か，または，その逆に中心から時計廻りに右下隅の順序か，どちらの順序でもいいですから，順番にひとこまずつ思い浮かぶものをそのまま何でも自由に描いて下さい。どうしても絵にできなければ，文字，図形，記号など何でもかまいません。

NODには，「思い付くまま自由に描くことができる」「枠が小さいので描きやすい」「多様な心の状態を一目でつかむことができる」「連想の流れが見える」などの特徴がある。

(2) 研究の構想（図2参照）

本研究では，まず，非言語的な表現手段の中からコラージュを活用することで児童の自己表現，自己表出を促し，心的浄化を図る。

次に，シェアリングで児童同士のコミュニケーションを取る場を設ける。児童は，コラージュなどの作品が媒介となることで，話しやすくなる。また，児童は，グループの中で，肯定的な感想を話し合うことを通じて，自己理解，他者理解が進む。

その結果，児童同士の心理的距離が縮まり，円滑なコミュニケーションを築くことができると考えた。

そのほかの支援として，活動の振り返りに，NODを活用することにした。児童の立場からは思い付くまま自由に描くことができるなどの利点があり，教師の立場からは児童の考えの流れや心の状態をつかむことができるなどの利点がある。それらを事後の支援に生かすことができると考えた。

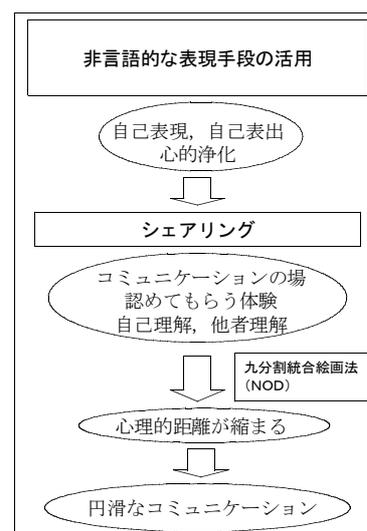


図2 研究の構想図

(3) 教師へのコラージュを通して

ア 目的

児童と同じ方法で，教師に対しコラージュを実施した。その目的は，次の3点である。

- (ア) コラージュとシェアリングの実施方法とその効果について検討する。
- (イ) 作品を通じて内面の変容を見て、コラージュの効果について確認する。
- (ウ) NODの実施方法とその効果について検討する。

イ 方法

教師11名に対して、5回にわたり個人コラージュを実施した。1週間に1回、それを5週連続で行った。作品は、9項目の対概念（図3）について5件法でチェックした。コラージュに詳しい教育センター所員3名にチェックを依頼し、その平均値を数値として表した。作品自体の変容を見ることにより、内面の変容を調べ、コラージュの効果を確認した。コラージュに使う雑誌は、条件を同じにするために一人当たり3冊、全員同じ雑誌を準備した。

コラージュ終了後に、グループでシェアリングを行い、各自の感想を出し合った。その後、NODを活用し、活動の振り返りを行った。

時間は、コラージュに40分間、シェアリングに20分間、振り返り（NOD）に5分間であった。

ウ コラージュとシェアリング

コラージュの1回目は、雑誌に目を通す時間が長くなり、予定していた40分では足りなかった人もいたが、回を重ねるにしたがって、時間内で終わることができた。活動中は、それぞれが制作に没頭していた。好きな部分を切り抜く時には、笑顔も見られた。

3回目は雪が降る日で、とても寒かった。その時の作品は、雪や氷など冷たいものが作品に登場したり、反対になべや温泉など温かいものが登場したりした。環境がもたらす作品への影響も見ることができ、心の中で感じていることが、作品に表れてくることが分かった。

シェアリングは5～6人のグループで行った。初回のシェアリングの前に、シェアリングの実施方法を説明した。作品紹介のヒントとして「作っている時の気持ち」「題名を付けるとしたら」「自分がいるとしたらどこ」「一番ぴったりくる場所」などを話すと良いことを伝えた。周りの人たちは「その作品を見て感じたこと」「良いと思うところ」など、プラス面から感想を出し合うことを伝えた。グループ内でプラス面の感想を出し合うことで、互いに笑顔でコミュニケーションが取れていた。1つのグループでは、質問のみが出ていたので良いところや好きなところも出し合うように声を掛けた。その後は、プラス面の感想がたくさん出て、感想の中にも、「自分の作品について分かってくれてうれしかった」という記述が出ていた。

自分の作品についてグループ内で話し合うことで、自己理解につながると考えるが「自分が感じていることと違うことを言われた時に違和感を感じる」という感想を記入していた人が1名いた。このような場合には、作品のとらえ方は人それぞれであり、そういう見方や感じ方もあるという声掛けが必要だと思われた。

シェアリングで、他者とかがかわることを通して、他者の考えていることなどを理解するようになり、他者理解が促進される。そのことにより、一層コミュニケーションが取りやすくなると言える。

エ 内面の変容

9項目の対概念（図3）では、右側の方が心のエネルギーが高いと言われている。この9項目を5件法でチェックし、心のエネルギーが高い方を「5」、低い方を「1」とした。

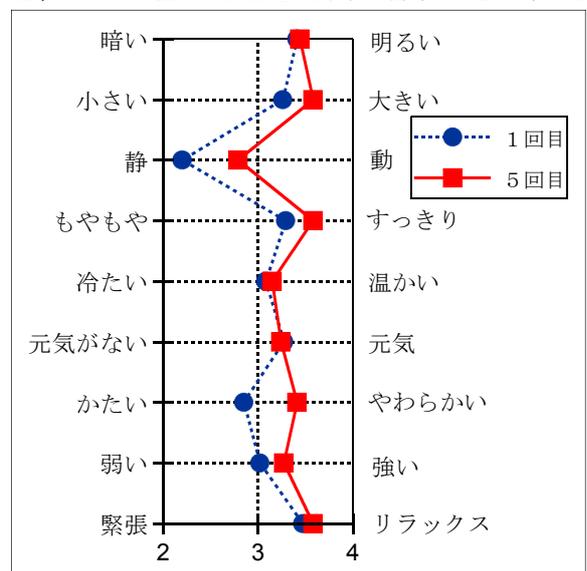


図3 作品から見る内面の変容

1回目と5回目のコラージュの作品を比較すると、1回目に比べて5回目の方が、8項目で数値の上昇が見られた。特に「動―静」「やわらかい―かたい」の項目は、0.5ポイント以上の上昇が見られた。また、9項目中8項目で数値が3より大きくなり、心のエネルギーが高い方に移行した。このことから、継続して行うことで、内面の変容に、より効果が表れることが分かった。

オ NODについて

振り返りに活用したNODの記入方法については、すぐに理解をしてもらえた。「9個書けない時は、全部書く必要はない」ということを事前に説明していたので、各自、書くことができる範囲で書いていた。「自分が思うままに制約なく書くことができる」「左上から書き出すのではないので、自由な感じがする」など肯定的な意見が多かった。ただ、渦巻状に書くことに戸惑った人や、自由過ぎて書きにくいと感じた人が1名いた。

⑤ もっと写真を貼りたい。	④ 汚れるって気持ちいい。	③ 欲求が少し満たされた。
⑥ 沖縄（遠くに行きたい）	⑨ すっきり！	② もっとやりたい。
⑦ みんなの今の気持ちが分かった。	⑧ みんな、それぞれ興味をもつものが違うと思った。	① 充実感

図4 1回目の振り返り（Aさん）

書き終わったら、書いた中から、今の気持ちに一番ぴったりする枠を丸で囲んでもらった。最初や最後に丸が付くことが多かった。連想の流れにおいて、最初と最後に重要なイメージが出やすいことを確認することができた。

記入した内容を、KJ法により分類し、整理し、集計した。1, 2回目は、「またしたい」など活動に対する意欲や興味や、「自分のことを分かってくれた」などコミュニケーションにかかわる感想が優先していたが、回を重ねるにしたがって、それが減っていき、反対に、「もっと上手に組み合わせたい」「主役は私」など、自分の作品を見て感じたことや作品に対する思いが優先するようになっていった。継続してコラージュを行うことで、自己表出が行われ、作品に対する思い入れが大きくなったからだと考えられる。

(4) 教師のアンケートから

教師への5回のコラージュが終わった後に、実際に学校で行う上での問題点、疑問点を探る目的でアンケートを実施した。

ア アンケートから分かったこと
コラージュを実際に学校、学級で児童生徒に対して行うかを聞いてみた。その結果は、「実施してみたい」が6名、「分からない」が5名という回答で、「実施したくない」はいなかった。それぞれの理由は表1の通りである。

表1 学級でのコラージュについて

実施してみたい理由	<ul style="list-style-type: none"> ・自己表出をねらって。 ・シェアリングで分かち合いたい。 ・プレゼントコラージュも。 ・自分がやってみて楽しいから。 ・自分が体験してみて「楽しい」と感じたから。 ・簡単にできるから。 ・相談室登校の生徒との会話のきっかけになりそうだから。 ・保健室登校の子にいいかなと思う。 ・予防・開発的な支援として。 ・実態把握のため。 ・考えや思いを知るため。 ・楽しくできそう。 ・誰にでもできる。 ・子どもたちの心の状態にプラスに働くような気がするから。
分からない理由	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がないと思う。 ・自分が何を見取ればいいのか分かっていないので、させばなしになりそうだから。 ・個人の心の動きを見取っていくのか、人間関係づくりをしていくのか目的を明確にできていない。 ・非言語での心の交流ができ、効果が期待できるものならば、ぜひやってみたい。 ・実施後の指導や判断の仕方が分からない。 ・養護学校Ⅲ課程では無理がある（義務制に戻るかどうか分からない）。 ・図工の中で取り入れることがあるかもしれない。

分らない理由としては、実施時間確保の問題、コラージュに関する知識や支援方法の問題などが挙げられた。

イ 問題点や疑問点を解消するための手立て

実施上の問題点や疑問点として、時間、支援の方法、作品の取扱い、シェアリングの方法、用具の準備などに関する疑問点が挙げられた。これらのことを解消するための手立てを示すことで学校でのコラージュの実践に役立つと考えた。そこで、次頁表2に示すように、主な問題点や疑

問点と、解消するための手立てをQ&A形式にまとめた。

表2 コラージュの実施に関するQ&A

質問	答え
時間がなかなか取れないのですが、いつ実施すればよいでしょうか？	特別活動の時間を中心に実施しましょう。2校時分使えど、ゆっくりできますが、工夫次第では時間を短くしてもできます。 例えば、コラージュに1校時充て、シェアリングは朝の会や帰りの会で行う方法があります。また、切り取る時間を省くために、コラージュ・ボックス法を使ったり、家で好きな写真を切り取ってきて授業中に貼ったりするなどの方法があります。
ただ、させるだけに終わってしまいそうですが、どうすればよいでしょうか？	コラージュをするだけでも、その活動を通して、自己表現、自己表出が促され、児童の心的浄化が行われます。 ほかの児童とのかかわりをもたせたい時は、シェアリングまで実施することをお勧めします。また、活動の後に、感想を書かせてみましょう。例えば、NODを活用すると、児童の心の流れなどが見えてきます。それを見て、個別の支援が必要な場合は、支援を行うことができます。
作品をどう見取ればよいか、分かりません。	学校で行う場合は、できた作品を分析したり評価する必要はありません。コミュニケーションの媒介として、活用してみましょう。 もし、継続して制作した時などは、それらの作品を並べてみると、貼っている物の数や大きさ、内容などから、その変化を見ることができると思います。
シェアリングをうまくさせることができるかどうか心配です。	振り返りシートに記入させてみましょう。書いたものがあると、一層話しやすくなります。 自分の作品をうまく紹介できない児童には、次のようにアドバイスをしてみましょう。 「一番好きな部分はどこ？」「この作品に題名を付けるとしたら？」「貼っている時、どんな気持ちだった？」「この中に自分はどこにいる？」 感想を出し合う時は、「相手の作品の、良いところや好きなところを見付け、そこを話し合う」ということに留意させましょう。
雑誌の内容は何でもよいのでしょうか？ また、雑誌を準備するのが大変ですが、どうしたらよいでしょうか？	いろいろなジャンルの写真がたくさん載っている雑誌がお勧めです。残虐な表現や性的な表現があるものは、あらかじめ除外しておく必要があります。 不用になった雑誌やカタログ、広告などを集める際は、保護者や職員に声を掛け、協力してもらおうとたくさん集まるでしょう。

(5) 個別のかかわりから学級へ

ア B児との個別のかかわりから

B児は不登校の小学6年女児である。ふだん、なかなか話さない児童なので、最初はプレイセラピーで関係作りを行った。卓球やバドミントン、ゲームなどを一緒に行うことを通して、心理的距離も縮まっていった。コラージュに誘う際は、コラージュの実施方法の説明を簡単に行い、活動をするか、活動しないかは、本人の意志に任せた。最初は少し迷っていたが「やってみようかな」という言葉が出て、活動に入った。

コラージュに誘う時は、最初どのように誘おうかと考えた。身体を動かす遊びには進んで取り組む児童が、コラージュにも取り組むだろうかと心配だった。しかし、プレイセラピーを通してコミュニケーションを取りながら、信頼関係ができたと感じたので、今なら誘っても大丈夫だろうと考えた。それは、一緒にいる時のB児の表情が柔らかくなり、視線が合うようになり、B児からの話し掛けが増えてきたりしたからである。

1回目(図5)は、B児が作っている時に、一緒に教師も作る相互法で行った。作品は、たくさんのぬいぐるみやバッグから、いやされたい、包まれたいという気持ちが表れていた。シェアリングでは、作品の中の自分が好きなところやそれに関する話が少しだったができた。教師からも写真について話し掛け、そこから少し話題が広がった。

2回目(図6)は、B児の友達と2人で実施した。今回のB児の作品は、人がたくさん登場し



図5 コラージュ1回目



図6 コラージュ2回目

心のエネルギーが高まったことが分かる。また、思春期の女の子らしい作品になっていた。シェアリングの際、B児は、友達の作品を見て「すごいな」と思ったり、自分の作品についての感想を聞くことがうれしいと感じていたりしたことを述べた。互いの作品について話すことによって2人のコミュニケーションが円滑になった。

イ 個別のかかわりから学級でのコラージュへ

このように、コラージュは、教師と児童の1対1のコミュニケーションだけでなく、友達とのコミュニケーションを円滑にする上でも効果的であった。コラージュの作品が媒介となることで共通の話題で話すことができた。そうすることで、心理的距離が縮まり、コミュニケーションが取りやすくなった。また、教師に実施したコラージュでも、コラージュの作品を基にシェアリングで感想を出し合うと、活発に話し合いが行われた。その中で、互いの作品の良さやその人の感じ方などを知ることができ、自己理解、他者理解につながった。色合いや切り方、貼り方、貼ってある写真などから判断し、だれの作品か当てることができる人も出てきた。シェアリングで、コミュニケーションを取るうちに、その人の特徴や作品の印象などを感じ取ることができ、他者理解が進んだと言える。

学級でコラージュを行う場合も、シェアリングを通して、周りの児童とのかかわりをたくさんもつことができる。すっきりした状態でたくさんの児童とかかわりながら、自己理解、他者理解が進んでいく。すべての児童に対して、コラージュの作品を基に、シェアリングを行うことで、コミュニケーションが取りやすくなると考えられる。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア コラージュでは、児童が自己表現、自己表出を行い、心的浄化で解放感を味わうことができることが分かった。シェアリングでは、児童が自然な心の状態であるために、また、作品が媒介となるためにコミュニケーションが取りやすくなる。活動の中での認めてもらう体験により、心理的距離が縮まり、円滑なコミュニケーションにつながる事が分かった。

イ NODは、コラージュとシェアリング後の児童の心の状態を一目でつかむことができ、事後の支援に活用できることが分かった。

(2) 今後の課題

ア 非言語的な表現手段を導入する際の留意点を探る必要がある。実施するのに適切な時期、児童が抵抗なくスムーズに活動に入っていくための手立てなどが考えられる。

イ 非言語的な表現手段を、発達段階に応じ、より効果的に活用する方法を探る必要がある。振り返りにおけるNODの活用については、発達段階に応じた活用方法を探る必要がある。

《引用文献》

- (1) 森谷 寛之 『子どものアートセラピー』 1995年 金剛出版 p.73

《参考文献》

- ・ 石隈 利紀 『学校心理学』 2001年 誠信書房
- ・ 傳田 健三 『子どもの遊びと心の治療』 1998年 金剛出版
- ・ 杉浦 京子 『コラージュ療法』 1994年 川島書店
- ・ 佐賀県教育センター 「集団不適応の児童・生徒へのかかわりについて一学校でできるコラージュ」

http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h16/10syochusodan/10index.htm (2006/3/16)